

授業科目	* 地域連携協働支援論				単位	1		
履 修	必修	関連資格			ナンバリング	NU21303J		
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-2 DP4-3			
担当教員	吉原 悦子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>地域で生活するあらゆるライフステージ、健康レベルにある人々の健康課題に着目し、ケアに必要な知識、方法を学ぶ。また、事例をもとに多職種連携・協働によるチームアプローチの視点から包括的にケアする方法を考える。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々の健康課題について、健康特性、価値観、地域環境、ケアニーズを踏まえてアセスメントすることができる。 2. 地域で生活する人々の強みや主体性を引きだし、多様な場に応じた看護実践について考えることができる。 3. 地域におけるリハビリテーションの意義を理解し、リハビリテーションを必要とする人の特徴について説明できる。 4. 地域で生活する人々の支援のために必要な保健・医療・福祉・教育等の領域の多職種連携とその必要性を説明できる。 5. 事例を通し必要な社会資源を考え、地域包括ケアシステムについて考察することができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	0	10	0	40	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	20	0			5		25	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	15		5		10		30	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)	15		5		20		40	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)					5		5	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>地域で生活する人々の健康課題をアセスメントする際に、健康特性、価値観、地域環境、ケアニーズなど個別性を十分に踏まえてアセスメントすることができる。</p> <p>さらに、地域で生活する人々の支援のために必要な保健・医療・福祉・教育等の領域の多職種連携についてその役割を看護</p>				<p>地域で生活する人々の健康課題をアセスメントすることができ、対象の強みや主体性を引きだし、支援について考えることができる。</p> <p>また、地域におけるリハビリテーションの意義を理解し、支援のために必要な保健・医療・福祉・教育等の領域の多職種連携</p>				

との協働について考察することができ、将来を将来を見据えた地域包括ケアシステムについて具体的に考えることができる。		について学び、地域包括ケアシステムについて考察することができる。		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:地域包括ケアシステムの概略 地域生活支援論で学んだ地域包括ケアシステムと地域包括ケアに位置付けられている地域ケア会議を通して多職種との連携や将来の健康問題を予測し予防する視点を学ぶ	講義	予習:地域生活支援論で学んだことを復習しておく 復習:講義内容	30
2	テーマ:地域包括ケアシステムにおける関係法規と社会資源 地域包括ケアシステムにおける関係法規と社会資源について概説する	講義	講義内容の復習	30
3	テーマ:地域包括ケアの実際 地域包括ケアの実際から生活する人々の意思決定を尊重した看護実践について考える	講義	講義内容の復習	30
4	テーマ:リハビリテーション看護① リハビリテーションの理念、定義、それに関連する制度について概説する。	講義	講義内容の復習	30
5	テーマ:リハビリテーション看護② 障害者をめぐる法律、倫理、チームアプローチ、看護介入について概説する。	講義	講義内容の復習	60
6	テーマ:地域リハビリテーションと地域包括ケア 介護予防、障害の改善、生活の再構築、社会参加を支援するための継続的なリハビリテーションについて考える	講義	講義内容の復習	30
7	テーマ:住環境を見渡す(外部講師) 健康回復・維持のための住環境を考え、ユニバーサルデザインについてを解説する	講義・ワーク	講義で学んだ身の回りにあるユニバーサルデザインについて目を向ける	30
8	テーマ:難病を抱える人を地域で支える 地域で生活を維持させるための社会資源を確認し、連携・協働について考える	講義・ワーク	既習の障害者に関する施策についての復習	30
9	テーマ:医療ケアを必要とする小児を地域で支える 医療ケアを必要とする小児に対して必要な社会資源を確認し、現在の課題を整理する施策などを整理する	講義・ワーク	既習の福祉施策、子育て施策についての復習	30
10	テーマ:認知症を有する人を地域で支える 地域で生活を維持させるための社会資源を確認し、連携・協働について考える	講義・ワーク	既習の認知症に関する施策についての復習	30
11	テーマ:事例を通して地域包括ケアを考える①	講義・ワーク	講義内容の復習	30
12	テーマ:事例を通して地域包括ケアを考える②	講義・ワーク	講義内容の復習	30
13	テーマ:事例を通して地域包括ケアを考える③	講義・ワーク	講義内容の復習	30
14	テーマ:事例発表 認知症を有する人・医療ケアを必要とする小児・難病を抱える人を支える課題について内容を共有する	講義・発表	本講義での学びを振り返り、今後の課題を考える。	30

15	テーマ:地域包括ケアとエンドオブライフケア これまでの講義を通して地域包括ケアとエンドオブライフケアについて考える	講義	講義内容の復習	30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	各看護学における対象の理解と、地域生活支援論で学んだ基礎知識が必要です。			
テキスト	臺有桂:ナーシング・グラフィカ在宅①地域療養を支えるケア メディカ出版 奥宮暁子:ナーシング・グラフィカ成人看護学②リハビリテーション看護 メディカ出版			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・中西純子:リハビリテーション看護論(第3版)ヌーヴェルヒロカワ ・高橋紘士:地域包括ケアシステム オーム社 ・上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用 萌文社 ・秋山正子:つながる・ささえる・つくりだす在宅現場の地域包括ケア 医学書院 ・関永信子:地域包括ケアシステムの基礎的理解と実践 翔雲社 ・後藤真澄:「生きる」「暮らす」を支える地域包括ケア みらい ・隅田好美:よくわかる地域包括ケア ミネルヴァ書房 ・福満美穂子:重症児ガール ぶどう社 			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	生活者としての視点を身につけるために、自分が住んでいる地域に興味関心をもって授業に臨んでください。また、新聞や報道などで疾患を持つ人のことだけではなく、子育て世代から高齢者まで些細な困りごとにも関心を寄せてほしいと思っています。			

達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	試験 50%、レポート 10%、レポート外の提出物 40%により評価します。 レポートについて講義の中で説明します。 毎回の出席は、出席カードで確認します。 提出物のフィードバックは講義の中で行います。
--------------------------------	--